

JAMトピックス

2012年度
ものづくり
シンポジウム

ものづくりは人づくり 人材に焦点をあてパネル討論

2012年5月24日
編集：JAM本部



<基調講演に聞き入る120名の出席者>

JAMものづくりシンポジウムが2012年5月19日東京で開かれ、今年のテーマを「ものづくりはひとづくり」
「人の活かし方・働く幸せ」として、日本の製造業の強みであり、ものづくりの原点である人材に焦点をあてて討論した。参加者はJAM組合員はじめ企業経営者・教育現場、行政などから120人。

冒頭のあいさつに立った大野弘二副会長は、日本のものづくりは、現場の労働者の気付き・提案・自発性、まじめさなど高コストを補って余りある高品質な労働力だと指摘。

ものづくりの原点である人づくりの重要性を強調した。基調講演では知的障害者が従業員7割を占め、社員・人間重視の会社経営を実践してきた日本理化学工業株式会社の大山泰弘会長が「働くこととは何か」「人は何のために働くのか」について講演。働くとは、「ほめられること、人の役に立つこと、人に必要とされること」と説いた。

パネル討論では、「働くことの動機づけ、人材の空洞化を防げ」と題して、企業経営の立場から、千代田鋼鉄工業株式会社の荒岡昇常務取締役、教育現場から日本工業大学工業教育研究所の渡辺勉教授、行政から厚生労働省能力開発局の志村幸久能力開発課長が登壇し、「人材教育は対一が若者のやる気を出させる」「安定・継続して供給される優秀な人材と、工業高校とJAMなど団体間の連



<人材育成について報告と提案がされた>

携が必要」「人材育成には各省庁の連携が大切」等それぞれ

の立場から報告と提言を受けた。一方、特別報告として、JAMが昨年から取り組んでいる高度熟練技能者派遣事業の成果を報告し、派遣を受けて「検定受験者数や合格率が向上した」「技能向上を実感した」こと、「次年度も100%が指導者の派遣を希望している」と紹介した。

ほめられ、役に立ち、必要とされる幸せ ～働いてこそ得られるもの～



<人は働いて必要とされる幸せがあると大山会長>

大山会長は、「中小企業の活路～知的障害者に導かれた企業経営」と題して、これまでの経験や禅寺の住職の言葉から働くことの意味を「人の幸せは、①愛されること②ほめられること③人の役に立つこと④人に必要とされること」と語り、②～④は会社で働いてこそ得られると強調した。

日本理化学工業株式会社は従業員73人の内7割の55人が知的障害を持ち、そのうち重度の知的障害者が26人という企業で、学校などで使うチョークを製造し、国内では三割を超えるシェアを持つ。会社の創業は昭和12

年だが知的障害者を雇用し始めたのは昭和35年。初めは、仕事のやり方を「指示」していたがうまく行

かず、ある時彼女たちが信号のある大きな道路を渡って通ってくることから、文字や数は分からなくても色は区別できると気づき、赤い缶に入った材料は赤い分銅を使って量るといような彼女たちの理解力の範囲内でできるよう工夫・段取ると不安なく仕事ができ、「知的障害者だって『人の役に立ちたい、ほめられたい』という思いはあるので集中してやる」と気付いたという。

障害者雇用について大山会長はベルギー方式を提唱する。企業が仕事を与え、障害者が働き、国が賃金を支払うというもので、「障害者は少しでも役に立てて働く幸せが叶えられて、且つ月12万円前後の最低賃金が国から支給され、そこからグループホームに月6~7万円支払えば生活の面倒をみられて、地域社会で自立ができる」。企業は賃金を国が払ってくれるので企業の経営体質を強化できる。国は福祉施設で面倒をみれば年間一人500万円かかるところ、最低賃金を150万円とすれば、年間350万円の財政削減ができる。国民にとって、障害者を持つ親は、将来への不安がなくなり、地域で自立できれば地域の活性化にもつながり、「正に四方一両得」と語った。

人材育成は一對一 ~キーワードは継続と連携~

パネル討論では、ものづくり進化論「働くことへの動機づけ、人材の空洞化を防げ」をテーマにコーディネーターに宮本礼一JAM書記長、パネリストに千代田鋼鉄工業(株)から荒岡昇常務取締役、日本工業大学工業教育研究所から渡辺勉教授、厚生労働省能力開発局から志村幸久能力開発課長が登壇した。荒岡氏は、人材教育について、数人あるいは一對一の教育が若者のやる気を出させ、活かすことにつながると語り、渡辺氏は、人材教育には金がかかると指摘し、これを値切るというのは国家が成り立たないと指摘。キーワードは「継続」と「連携」と語り、安定的に継続して優秀な人材が供給されないと地方に企業が進出しない、そのために工業高校とJAMなどの団体が連携していく必要があると強調した。

行政の立場からは志村氏が厚労省の能力開発施策を説明しながら、人材育成は今後日本で成長が見込めるものづくり分野で訓練をしていく。これまで以上に各省庁が①教育制度②先導的な中小企業施策③労使関係、法制、労働市場制度、技能面の重視—などで連携が必要だと語った。

高度熟練技能者派遣事業は失くしてはならない

パネル討論冒頭、渡辺教授はJAMが高度熟練技能者を派遣した埼玉県立大宮工業高校の校長を今年三月まで務めていたと自己紹介し、事業仕分けで突然、高度熟練技能者の派遣が打ち切られ、困っていたところにJAMから声を掛けられ本当にうれしかった。この事業は生徒のため将来の産業人のために欠かすことのできないものだと言った。



<一對一の教育が大切と荒岡常務>



<人材教育にはお金がかかると渡辺教授>



<成長が見込める分野で訓練と志村課長>